

産業展望・東アジア連携に関し御議論いただきたい論点

(10月27日改訂)

1. 2030年の世界経済及び日本経済の姿

- ・ 主要国の長期的な成長力をどう予測するか。リスク・ファクターは何か。
- ・ 世界経済の中で我が国がアジア地域を重視する理由は何か。アジアの範囲をどこまでと考えるか。アジアの持続的な発展のためにどのような広域的な取組ができるか。

<視点>

東アジア地域が中長期的に経済発展を遂げる潜在力を有しており、我が国と東アジア地域との貿易依存関係が強くなってきている

我が国における外国人旅行者、居住者の国別内訳をみると、東アジア地域の占める割合が高く、東アジア地域内における文化交流も活発になってきている

急速な経済発展の負の側面である東アジア域内の環境問題について、我が国の経験を活かした国際協力ができる

- ・ 日本企業の国際展開や外資系企業の国内展開は、長期的にみてどう変化するか
- ・ 将来の産業構造・エネルギー需給の展望をどう考えるか

(注) 下線は修正部分。

2. 成長のエンジンとなる国際競争力・経済活力のある都市

・国際競争力・経済活力のある都市について、どう考えるか。

< 視点 >

新たな価値を創造し、比較優位のある商品・サービスを提供できる機能を有する都市

新しく需要をつくっていける都市

・国際競争力・経済活力のある都市の具体的な内容は何か。世界から人を惹きつけるための磁力としての装置は何か。

< 視点 >

地域の特色ある文化資本(知的拠点)を核とした国際競争力・経済活力の維持(情報収集・情報発信機能の強化)が必要ではないか。

多様な業種・人財¹が集積しフェイス・トゥ・フェイスの交流機会を提供している都市

消費者の潜在的なニーズと、新商品・サービス供給者との接点を提供する都市(新市場を創造する都市の形成)

人的交流の活発な都市(観光立国、人財集積の観点も含め)

・多様な人財の集積という観点から知的労働者・留学生が活躍できるための仕組みとは何か。

・国際競争力・経済活力のある都市の推進策は何か。大都市圏、地方中枢・中核都市圏、地方中小都市圏は、どのような役割を果たすのか

< 視点 >

世界をリードできる企業の本社機能や研究開発拠点(知的クラスター、産業クラスター等による地域発の科学技術創造立国の実現)を国内で維持。

魅力ある最先端の研究開発活動

研究開発及びその成果を国際的ビジネスとして展開していく担

¹)ここでいう「人財」とは、単なる労働力としての人材ではなく、世界の最先端にある研究開発や国際的ビジネス戦略を主導できるような知的人財(talent)のことである。

い手としての人財の育成、確保。

国際的な競争力のある企業・個人を惹きつけるまちづくり

災害・犯罪リスクの低減による安全・安心のまちづくり

・経済活力を維持するために、都市と地域が連携して、地域の個性や既存のストック(社会資本・文化資本)を活用した特色ある地域づくりを行うことが必要ではないか。

・財政制約が更に厳しくなるなかで、行政と市民の協働の仕組みとして、コミュニティ・ビジネスによる元気なシニア世代の積極的な社会参加が必要ではないか。

・地域活性化のためには、地域金融機関によるリレーションシップ・バンキング機能の強化が必要ではないか。

3. 東アジアと連携する国際競争力のある都市の育成

・ アジアのなかで日本はどのようなビジネスモデルを構築するか

・ アジア域内の資金循環を促進するためには何ができるか

・ 東アジア連携の具体的な内容は何か(事例から)

貿易・投資環境を改善するため、非関税部分で地域限定の優遇策を推進(都市ネットワークを活用した貿易・投資の促進)

都市ネットワークを活用したアジアの企業・起業家の誘致

都市ネットワークを活かした国際コンベンションの活性化

リピーター数の増加が今後も見込まれる東アジアでのシティ・セールスの推進

アジアとの文化交流から芸術のビジネス化を促進

資源のリサイクルを通じた連携

・ 東アジア連携の推進策は何か

< 視点 >

(国) 情報発信機能の強化

(地方自治体) 地域の特性を活かしたシティ・セールスの展開

(企業) よき企業市民(メセナ)として公共活動をサポート

(個人) 多文化共生の理念に基づき、寛容性のある生活空間づくりに参画

(以上)